

# 平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	ホテル・観光サービス業に携わる若者の職業観育成教育プログラムの開発と実践		
法人名	学校法人石川学園		
学校名	専門学校 大育		
代表者	理事長 石川 正一	担当者 連絡先	石川 正剛 098-885-5330

## 1. 事業の概要

県内ホテル・観光サービス業に携わる若年者の離職の改善を目指し、再就職に際して重要となる職業観（プロ意識）と自己を含めたマネジメントの強化を目的とした教育プログラムを開発した。教育プログラムの開発に際し、再チャレンジに必要な資質の向上を目的とした各種教育の実態の調査を行った。

開発した教育プログラムは、若年層受講者を募って実施し、沖縄県におけるホテル・観光サービス業への再チャレンジ、及び就業予定者に対する離職の予防を行った。

これからホテル・観光サービス業への再チャレンジや就業を目指す受講者に対し、早期離職の発生する原因を就業前に共有・理解させ、観光という楽しいシーンでの仕事という曖昧なイメージではなく、適正な職業観を持ち、プロとして専門職業を極める姿勢と素養を持たせることを目的とした。

## 2. 事業の評価に関する項目

### ①目的・重点事項の達成状況

実態調査により離職の原因を把握し、永く継続することの出来る（沖縄県における）ホテル・観光サービス業への取り組み方や専門職業人として求められるマインド・知識・スキルを教育コンテンツとすることが出来た。

また開発した教育プログラムの実証実施により、ホテル・観光サービス業へのチャレンジを予定する17名の若年層に受講させ、ホテル観光サービス業に対する職業意識を喚起することが出来た。

### ②事業により得られた成果

2009年2月に開発プログラムの受講者募集を行い、沖縄県におけるホテル・観光サービス業への就業を志す17名の若年者を育成した。

受講者には、既に専門学校等において観光の専攻を行っている者、観光関係の資格を取得している者も含まれたが、アンケートでは、「就業のリアルなイメージを持つことができ、改めてホテル・観光サービス業の専門人材を目指す意識が高まった」との評価を得た。

### ③今後の活用

本学では観光産業科、及び観光ビジネス科を設置している。当事業で開発したプログラムは教員向けティーチングノートも作成しているため、教員に展開し、授業に組み入れる余地などについて検討する。

また本年実施したようなスポットで受講生を募り、教育を行う活動も合わせて検討したい。

### ④次年度以降における課題・展開

本年の受講者からは好評を得、一定の成果を創出することができるプログラムを開発できたが、今後の展開を見据えると、受講生の募集に関して課題がある。

本年の実施においても、本学を中心にした地域のネットワークを活用した募集に加えて、行政やハローワーク等での掲示協力などを行ったが、単なる掲示告知だけの一般公募からはなかなか多くの受講者を募ることは難しかった。

本来当プログラムの受講が必要な若年層に、より多くリーチし、必要性を訴求して、参加に巻き込むための活動には時間と費用をかけて工夫する必要があると考えられる。

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ①履修証明書等

なし。

#### ②カリキュラムの内容

『Ⅰ. リアルな実態の把握』『Ⅱ. 業界全体の俯瞰と職業への理解』『必要な知識・スキルの習得』の3つのパートを中核とした25時間のプログラム。

”リアルな実態の把握”では、離職に至る要因の解明を内包させたケーススタディ教材を作成し、多面的な観点から、職業観(プロ意識)、その仕事の社会意義や仕事と自己との関係性を考えさせる。離職理由の多くが、就業前においても知りうる情報を十分に検討したか否かに起因していることを明らかにして、ホテル・観光サービス業に臨む際に必要な理解や覚悟を醸成する。

”職業理解”のパートでは、沖縄県における観光業の位置付けやそこで就業する専門職業人に求められるものの理解を中心とする。

”知識・スキルの習得”では、学んだことを元に、職務現場での実例を題材に、受講者同士で議論し、課題解決に取り組む演習を行うことで、ホテル・観光サービス業への再チャレンジや就業に向けた実践力へと結実させる。

#### ③講座の実施

開発した全教材を3日間に渡って実施した。

受講者は専門学校等の観光専攻やインターンシップを行っていてまだ就職先が未決定の者や、内定をしていてこれから従事する予定の者、ホテル・観光サービス業に従事する1～2年目の者で当プログラムの趣旨に賛同して参加申し込みした者を中心に17名に対して教育を行った。

#### ④支援対象者(受講者)の状況

当プログラムにおける各テーマの理解、及びプログラム全体に対する評価に関しては、4段階評価(4の方が高い)でいずれも3.5ポイント以上を獲得できた。

プログラムの受講を受けてから就業先を探索する者の進路確定結果や、就業後の継続度合いは今後も観察することが重要だが、当プログラムが受講者のその後の活動に与えた影響に関しては、「当プログラムをホテル・観光サービス業志向の知人に勧めるか」といった客観評価を得るアンケート項目において、71%が”非常にそう思う”と返答しており、単なる理解や評価とは別に、受講者の声として当プログラムの有用性を確認できた。